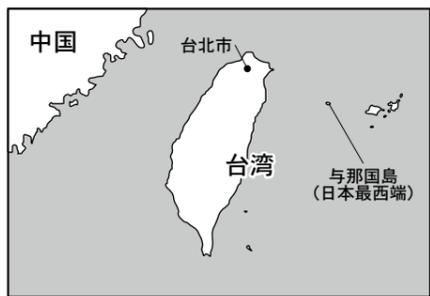


美浦中学校二年生が 台北市立敦化中学校を訪問



◇引率者 《敬称略》
 団長 下村 宏(美浦村議会議員)
 小松 正樹(美浦中学校校長)
 田中 久弥子(美浦中学校教諭)
 小笠原 昇平(美浦中学校教諭)
 木鉛 昌夫(役場企画財政課)
 元井 絹代(通訳・語学教師)

今年で22回目をむかえる「美浦少年のつばさ事業」は、海外の同世代の人々との交流を通じ、国際感覚を備えた美浦村の将来を担っていく人材の育成を目的に、美浦村人材育成推進協議会が毎年行っている事業です。今回は、美浦中学校2年生138名中38名の応募があり、その中から訪問団員16名を抽選により決定しました。今年8月4日から9日までの6日間の日程で台湾(台北市等)を訪れ、子どもたちは日常と違う環境の中で言葉の壁にぶつかりながらも、台北市立敦化中学校の歓迎ムードに後押しされ、交流を深め、かけがえのない台湾の友人ができました。また、台湾ならではの伝統と文化や人々の暮らしを身近に体験した6日間でした。



団長・美浦村議会議員
下村 宏

今回で22回目となった「美浦少年のつばさ事業」に、団長として参加させていただきました。美浦中生16名と引率者6名の総勢22名で結成された訪問団は、台北市立敦化中学校の生徒達との交流を中心に有意義な6日間を過ごしてまいりました。敦化中への訪問・交流は、昨年に引き続き2回目の訪問でもありスムーズかつ中身の濃い交流をすることができました。はじめは戸惑いを感じていた美浦中生と敦化中生でしたがすぐに打ち解け、片言の台湾語や英語そしてジェスチャーで気持ちを伝える姿を見て、「友情に国境はない」と強く感じることができました。また、「台湾の風光明媚な景色、文化を目の当たりにした美浦中生たちはひと回り大きく成長し、今後の人生の中で大きな意義を持つことができたと考えられます。最後に、トラブルなく全員無事に帰国できましたことは団長として一番の喜びであり、参加された美浦中生および引率者各位をはじめ、保護者の皆さま、関係各位に感謝申し上げます。



林 美空
(2-A)

私は、台湾がすごく素晴らしい国だと感じました。台湾の敦化中の方々はすごく優しく笑顔が絶えない立派な方々でした。カラーガードを教わったときも、私たちが分かるまで粘り強く、分かりやすく、何回も何回も教えてくれたおかげで、カラーガードをみんな成功することができ、そのときの達成感を得られたのだと思います。2日目で行った天灯上げでは、願い事のほかに私たちの名前と日本語で「ありがとう」と書いてくれたときはすごく嬉しかったです。そのときのお礼をいつか敦化中の方々に伝えられたいなと思いました。



織 大翔
(2-A)

僕は少年のつばさ事業に参加して、敦化中学校との交流で感じたことがたくさんありました。一つ目は、とても難しいカラーガードをこなしていたこと。二つ目は、日本語を僕達のように話していたこと。三つ目は、僕達みんなが苦勞して覚えた日本伝統のよさこいソーランを、一回見ただけで半分くらい踊ってしまっていたことです。日本と台湾では中学生としてこんなにも差があるのかと実感しました。今後は自分自身も台湾の中学生を目標とし、学力向上や体力強化に努力していきたいと思ひます。大人になったらまた台湾に行きたいと思ひました。

私は台湾に行って感じたことや驚いたことがたくさんありました。まず、空港から出て湿度が高かったことです。淡水や九份の屋台、士林のナイトマーケットは、日本では嗅いだことのない生まれて初めての独特のにおいでした。



御手洗 千皓
(2-B)

2日目と3日目は敦化中学校と交流しました。敦化中の人達は英語がとても上手で、もっとたくさん英語を勉強しているなことを話したいなと思ひました。私が台湾に行けたのは、先生や家族、村の人達のおかげで少年のつばさに参加することができました。その人達に感謝して生活していきたいです。



小野 峻真
(2-B)

今回の台湾研修で一番心に残っていることは、敦化中学校の生徒の皆さんとの交流です。台湾の中学生には、日本語が上手な人がたくさんいました。そして、とても親切に接してくれたことがうれしかったです。十分というところでは、一緒に天灯上げを体験しました。天灯に願い事を書き、空に飛ばすと願いが叶うと言われています。忠烈祠では、衛兵の交代が印象的でした。一糸乱れぬ行進と銃剣さばきには、とても感動しました。日本とは異なる文化にふれ、たくさんの驚きと感動を味わうことができました。



黒田 和哉
(2-C)

僕は、敦化中学校の生徒と2日間交流をして、いろいろなことを実感しました。特に印象に残っていることは、敦化中の生徒が初対面の僕に日本語で台湾のことを紹介してくれたことです。正直、日本人と変わらないほどうまく、レベルの違いに驚きました。僕は、簡単な中国語しか勉強しておらず世界の壁を感じました。台湾では食事のマナーなども厳しく、自分も少しマナー違反をしてしまい、改めて勉強の足りなさを痛感しました。この6日間、台湾の歴史や文化にふれることがとても勉強になり、これからの生活に役立てていきたいと思ひます。



木村 ひとみ
(2-B)

敦化中学校の生徒と交流して、英語の会話力が大切だと感じました。敦化中生と会話している中で、分からないことがあると違った表現に言い換えてくれました。私はまだその力がないので、英語で表現をするパリエーションを増やしたいです。台湾を訪ねて感じたことは、日本と異なる生活の様子や文化に驚きました。反対に、日本と近い点も多かったです。生活や文化の違いがあるのはなぜか興味を持ちました。私にとって、この美浦少年のつばさ事業はとても良い体験になりました。



私は少年のつばさに参加して、思ったこと、感じたことがあります。まず、敦化中学校の生徒と交流して感じたことは、言葉があまりわからなくても気持ちは通じるということです。敦化中のみんなはとてもフレンドリーで、積極的な子ばかりでした。ジェスチャーなどで思っていることを表現してくれました。みんな仲良くなって、交流を終えた後さびしさを感じました。文化の面では、日本と違う部分も多く興味深かったです。また、食べ物も日本とは匂いや味が違いました。



青木 摩衣
(2 - C)

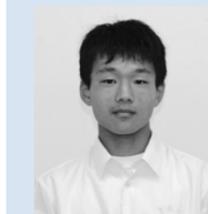
この5泊6日でとても良い体験ができました。

僕は、台北の敦化中学校の生徒達と交流して、驚いたことがあります。それは、敦化中の人達の英語がとても流ちょうだったことです。それは僕達が話についていけないほどでした。それにとても優しいので、初めて会ったときは緊張していましたが、2日目は仲良く話せるようになりました。



出戸 大樹
(2 - B)

僕たちを迎えてくれた敦化中学校は台湾でも有名な中学校で、進学率が99パーセントだそうです。だから生徒数も一学年に1000人近くもいるそうなので、校舎がすごく広かったです。台湾の文化に触れて様々なことが学べました。



小島 義史
(2 - A)

僕は、今回の台湾訪問で思ったことがあります。まず、台湾の人達は親切な人が多く、今回台湾でいろいろな店に行きましたが、どの店員の人も親切でした。日本と違ったところはユニークな店員が多くて楽しく買い物できました。敦化中の人も親切でフレンドリーでした。1日目はお互い初対面だったため会話が少なかったけど、2日目ではお互い仲良くなり楽しく交流できました。最初は中国語が全く分からず台湾の人と話すのが難しかったけど、ジェスチャーや少しずつ覚えた中国語で話すことができ、言語の大切さを改めて感じました。



桜井 美織
(2 - C)

私が初めての空港～台湾に行ってみて良かったと思うことが二つあります。一つ目は、空港での不安でした。よくテレビで飛行機の悪いことを見ていて不安でしたが、無事に台湾に着いたので安心して1日を過ごすことができました。二つ目は、敦化中学校の生徒との交流です。1日目の午前はうまくしゃべれなかったのですが、午後からの発表で教えてもらう内に仲良くなり、住所を教えてくださいました。2日目の天灯上げでは、みんなの願い事を天灯に書いて、台湾の男の子とも一緒に願いを空に飛ばしました。みんなの願いが叶いますように。



濱田 玲香
(2 - D)

私は敦化中学校での歓迎会で、生徒代表挨拶を日本語と台湾語を交えてスピーチしました。つたない台湾語が伝わるか不安でしたが、挨拶の後に拍手喝采となり、とても嬉しかったです。交流会では、時間の経過とともに英会話がはずむようになったものの、敦化中学校の生徒の英会話力には驚きました。私が仲良くなった敦化中学校の友達とはたくさん英語で会話をし、コミュニケーションを深められました。言葉が伝わる素晴らしさを実感して、世界に通用する英会話力を身につけられるように、もっと英会話を勉強しようと思いました。



芝崎 伊武希
(2 - D)

僕は、台湾での6日間を通していろいろ勉強になりました。特に敦化中との交流です。英語などを通して会話し、外国人との会話の楽しさが分かりました。おどろいたことは敦化中に日本語を話すことができる生徒がいたことです。とても上手で聞きやすい日本語でした。また、日本と台湾では箸の長さがちがったりテーブルが回る仕組みになっていてとても食べやすいなど、文化の違いにびっくりしました。料理もとてもおいしくて日本では味わえない味だったと思います。とても充実した6日間でした。村・家族・仲間感謝したいです。

今回の少年のつばさに参加して、敦化中学校との交流で感じたことがたくさんあります。まず、敦化中学校の人がとても親切に交流してくれたことです。最初に敦化中を訪問したときは不安な気持ちでしたが、敦化中の人が親切に学校案内してくれました。1日目はみんな少しひきぎみだったけど、2日目になるとみんなが積極的に声をかけていて、おたがい「英語」での会話がめだっていました。最後には「絆」が深まったと思います。



道場 涼太
(2 - D)

また、日本語もとてもうまく、台湾の人はすごいと思いました。

私は今回、少年のつばさに参加して学んだことがあります。まず、敦化中学校の方々と交流し、台湾の文化などに触れたとき、「日本とは違う。」と思いました。食事のとき、お箸が長かったり、テーブルが回ったりしたこと。料理はどれもおいしかったです。



青野 菜摘
(2 - C)

また、台湾の中学生たちは、英語がペラペラで驚きました。私ももっと英語が話せれば、たくさんのお話をし、もっと仲良くなれたのかなと思いました。台湾での6日間で学んだたくさんのお話を、今後の生活に活かしていきたいです。



高野 凜太郎
(2 - A)

美浦少年のつばさを通して自分が成長できたと思うところがあります。例えばあいさつです。台湾に着いたときは、緊張と不安からあいさつがまったくできませんでしたが、最終日には全員が大きな声であいさつすることができました。次は時間に厳しくなったことです。少年のつばさは団体行動なので、時間を大切に行動していました。最初は遅刻する人もいましたが、最後は時間を守って5分前行動もきちんと出ていました。少年のつばさで成長できたところはこれからも忘れずに、そしてもっともっと伸ばしていきたいです。



若泉 香奈
(2 - C)

私たちは、8月4日から9日にかけて6日間台湾に行ってきました。台湾に行きつて印象に残ったことが二つあります。一つ目が敦化中学校での交流です。日本の中学校とちがって生徒の人数が2500人を超えていて、校舎がすごく大きかったです。美浦中は400人くらいなので6倍の生徒がいることがすごくおどろきました。二つ目は敦化中学校の部活で行われているカラーガードの演技です。さまざまな色や形がある旗を器用にまわしてすごいなと思いました。私たちがいろいろな技を教わって、よい体験ができました。